

# 敏満寺遺跡発掘調査現地説明会資料

所在地	滋賀県犬上郡多賀町大字敏満寺字青龍山地先
調査面積	約 117.7㎡
調査原因	国史跡追加指定のための確認調査
調査期間	平成 17 年 10 月～平成 17 年 12 月
調査機関	多賀町教育委員会

## 1. はじめに

敏満寺遺跡は、多賀町大字敏満寺に所在する青龍山の山腹及び青龍山から舌状にのびる台地上に広がる寺院跡で、山腹には大規模な中世墓地（石仏谷墓跡）が良好に保存されています。

敏満寺跡の調査は、昭和 34 年（1959）に名神高速道路建設に伴って実施されたことを初めとして、多賀サービスサービスエリア改修工事等に伴って数回実施されており、城郭施設や区画溝に囲まれた建物群の発見など寺院の多彩な側面が明らかになるなど、注目を集めてきました。しかし、それらはあくまで台地上の様相であり、敏満寺の多くは以前謎に包まれたままでした。

多賀町教育委員会では、平成 14・15 年度に青龍山西側山腹の測量調査を実施し、坊跡と考えられる多数の平坦地や道跡・土塁が良好に保存されていることを確認しました。平成 17 年 7 月には石仏谷墓跡は国史跡に指定され、多賀町教育委員会では将来的に史跡の指定範囲を敏満寺遺跡全域に広げて遺跡を保存していくことを目標としており、今回は平坦地の性格を明らかにするために発掘調査を実施しました。

## 2. 発掘調査の成果

調査地は、平坦地群（図 1）のなかでも比較的広い平坦地で、しかも石仏谷墓跡へと続く道の途中に所在することから当地に設定しました。調査地のなかに 11 カ所の調査区（図 2）を設け、発掘調査を実施しました。

その結果、三時期にわたる焼け跡（図 3 中の炭層 1～3）が確認され、焼けた跡に整地して規模を拡大させながら、最終的には前面に石垣（写真 1～3）を築いて、その背後に盛土して平坦地をつくる大規模な工事がおこなわれていたことが確認されました。石垣は平坦地の西側と北側で確認され、南北 10.6 m、東西 1 m 以上の範囲で確認されています。

石垣施設は、敏満寺の寺院跡内では今回初めての発見で、近隣では百済寺や金剛輪寺などの大寺院で確認されていることから、敏満寺もこれに匹敵するような規模であったと想像されます。

建物跡と考えられる礎石の抜き跡や柱穴は T 6 の東側（図 4 中の遺構面 3）に集中しており、遺物も集中していることから、主要な建物はこの付近に建っていたと想定されます。調査区は部分的ですので建物の規模などは明らかではありません。

遺構の年代は、遺構面 1 は不明ですが、遺構面 2 が 13 世紀代、遺構面 3 が 15・16 世紀代と考えられ、16 世紀後葉に廃棄されたと考えられます。

主な出土遺物は、青銅製の仏像、輸入陶磁器、瀬戸焼、信楽焼、土師器皿、鉄釘などで、その内容からも堂舎が建っていた可能性が高いと考えられます。

## 3. おわりに

今回の調査で、青龍山山腹の平坦地群において良好に寺院遺構が保存されていること、文献に記されているとおり何度も火災や焼き討ちにあい、その度に規模を拡大させて復興をおこなっていたこと、遺構面上にはかなりの堆積土が認められ、現在見ることのできる平坦地群が後世に改変を受けた地形である可能性があることなどが明らかとなりました。

今後も貴重な遺跡を保存していくために、史跡追加指定に向けて調査を継続していく予定です。

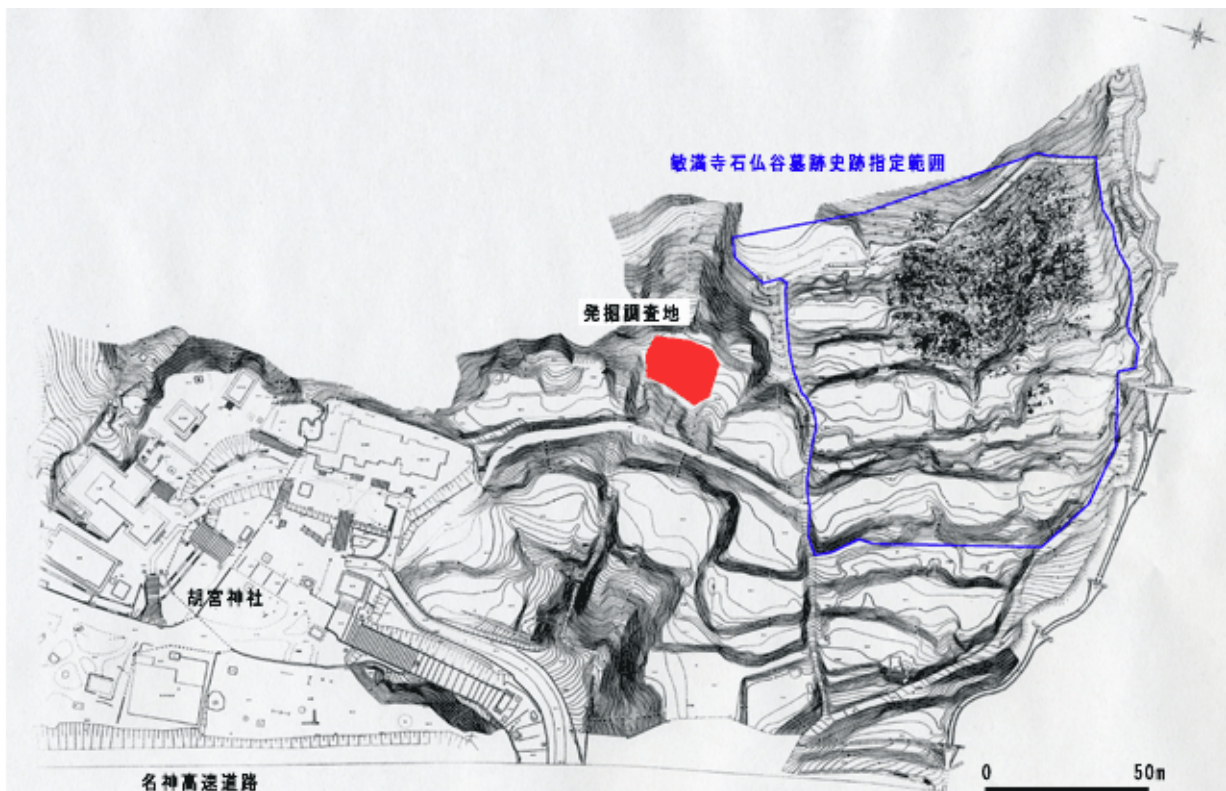


図1 調査地位置図

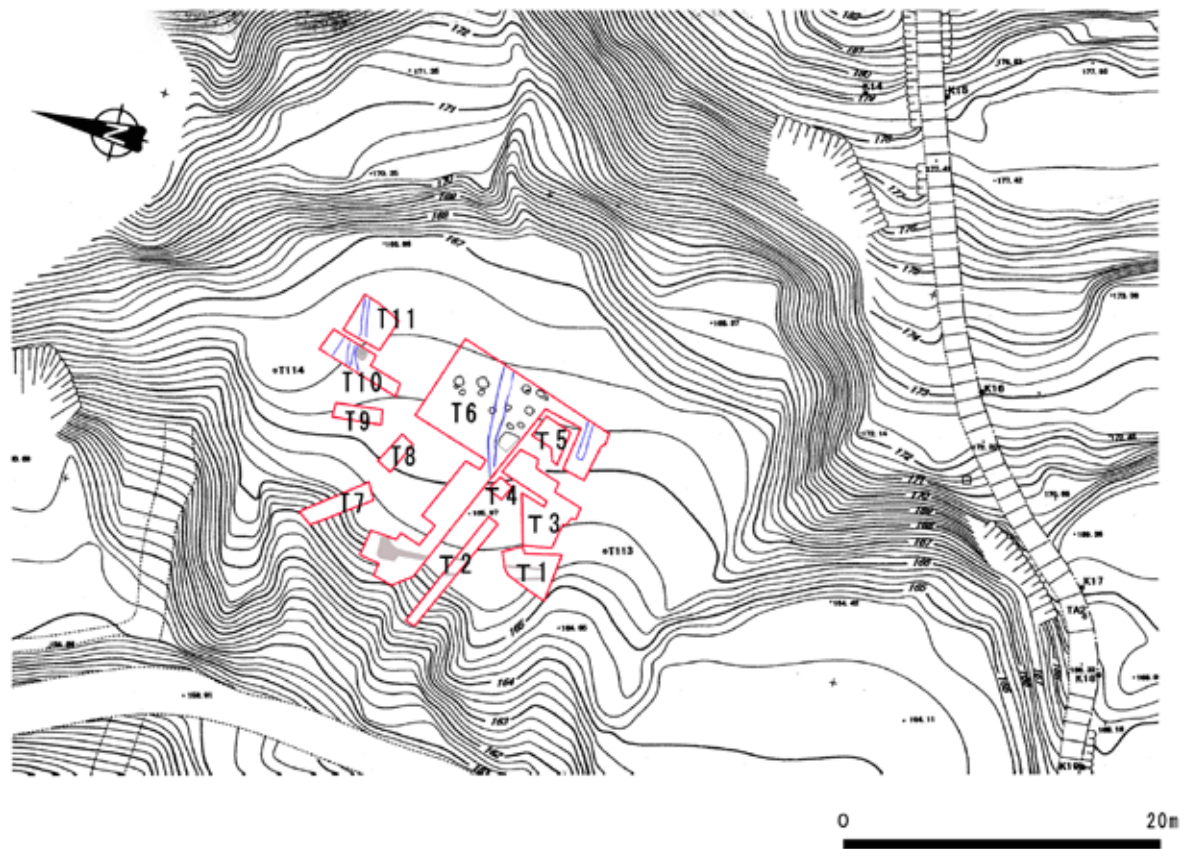


図2 トレンチ位置図

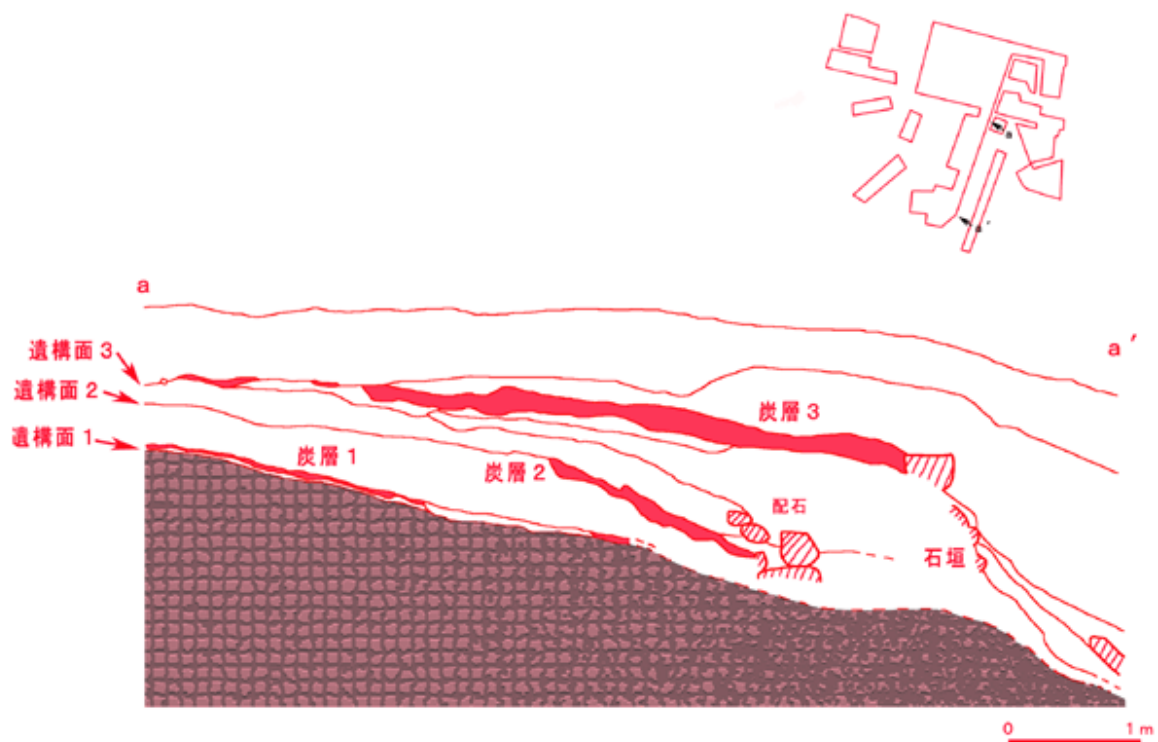


图3 T6土層断面图

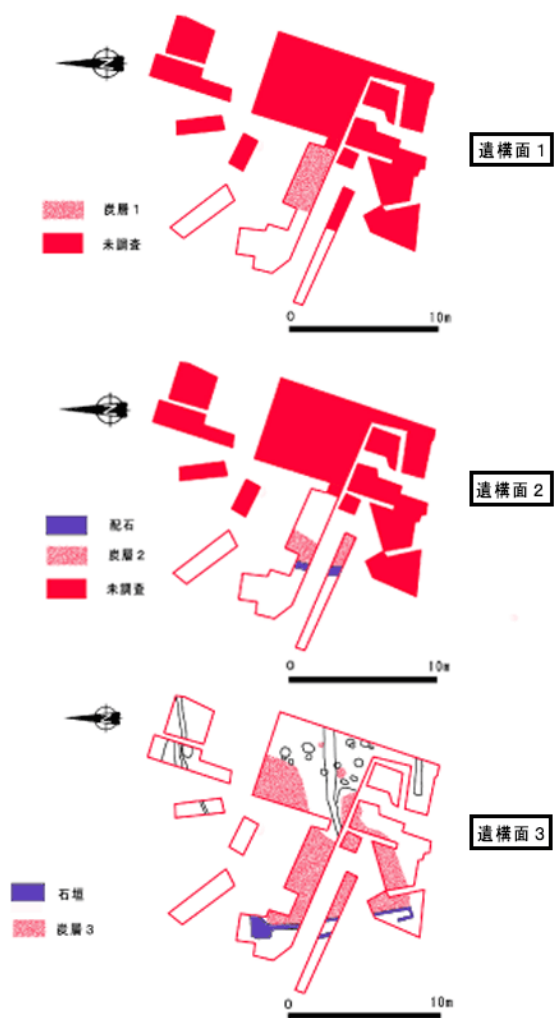


图1 位置图





写真1 T1石垣検出状況



写真2 T2石垣検出状況



写真3 T6石垣検出状況